

日本比較文化学会

JACC 比較文化会報

本部事務局：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学
佐藤静研究室

会長室：〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

NPO法人国際比較文化研究所内 太田敬雄 mtharunac@xp.wind.jp

会報編集室：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53 新島学園短期大学内

高山有紀研究室 y-takaya@mail.neesima.ac.jp

学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

《第28回全国大会》 新生・日本比較文化学会を記念して

関東支部長 野口周一

前回の関東支部主管の全国大会は東北学院大学を会場にお借りしてのものでしたから、今回は久方ぶりの関東地区を会場としての大会でした。

当日は梅雨の走りを思わせる天候であったものの、朝方は都心から会場である駿河台大学飯能キャンパスへの道程は緑色濃い車窓風景を楽しめるものでした。

このたびは、新体制発足のために2度の総会を開催するなど、時間的な制約をいかにクリアするかという課題を当初からかかえておりました。

講演は岸田和明氏（慶応義塾大学教授）による「文化情報資源の管理と提供」という時宜を得たものであり、シンポジウムは「多文化情報時代の教育」として、内容もさることながら、シンポジウムのあり方そのものを問うものでありました。研究発表は5室、26件を数えました。韓国からの片茂鎮、権柄旭、柳椿姫の三教授にもご発表いただき、名実ともに大会に花を添えることができました。ただ、残念ながら1名の方が病気のために直前のキャンセルとなり、ご迷惑をおかけいたしました。大会実行委員長として心よりお詫び申し上げます。

学会への参加者は80余名に上り、懇親会へもその半数近くの方々にご参加いただき、活発な交流が行われましたことは喜ばしい限りであります。また、大会発表抄録の作成にあたり、寄稿者の活字のポイントをそろえるなど、ひそやかな努力もいたしました。

新生・日本比較文化学会の門出にあたり、大会実行委員長として、最後に一言述べさせていただきます。巷では藤原正彦氏の『国家の品格』が大量に売り捌かれているようですが、それは社会の実相を反映してのものでありましょ。私たちは研究・教育活動を充実させることに努めることはもちろんであります。人間としての品性を高める努力も怠ってはならないと思います。品性をふくめた真の教養こそ、時代を再生させるキーワードになるものと確信しております。

会員各位には多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

総会の報告

事務局 佐藤 静

日本比較文化学会の平成 18 年度総会は、第 28 回全国大会の会場となった駿河台大学(埼玉県飯能市)で平成 18 年 6 月 10 日の午前中に開催されました。総会の議長は太田会長が、進行は佐藤(事務局)が担当しました。今回は会則の改定があり、役員交代/新理事の選出等の審議が必要だったため、新理事会を間に挟んだ形で前後 2 回の総会が開催されました。以下にその概要を報告します。

まず 2005 年度事業報告及び 2005 年度収支決算報告と会計監査の報告があり、承認されました。2006 年度予算については、前年度から引き継いだ故中牧記念出版費の 60 万円やホームページ立ち上げ経費 27 万円と年間維持費 12 万円等を計上して、承認されました。

太田会長から会則改定の説明があり、承認されました。それに伴い、畠中康男氏を臨時議長に選出して新理事候補者の信任について審議し、承認されました。さらに新理事会で太田会長を再任し、2 回目の総会で承認されました。なお、理事及び各支部役員、各種委員会の委員長・委員、研究部会長については学会ホームページに掲載されていますのでご参照ください。

また、総会の席で、金麗実氏・国分舞氏(以上 2005 年度)と佐藤和哉氏・高橋強氏・長谷部陽一郎氏(以上 2006 年度)に対して会長奨励賞の授与が行われました。

その他、理事会・総会で承認・報告された主な事柄は次のとおりです。『比較文化研究』の投稿規程が改定されました。来年度の全国大会は中国・四国支部が担当することになりました。学会ホームページの立ち上げが完了し、長谷部陽一郎氏(同志社大学)を中心に運営していくことになりました。会長奨励賞の選考とともに、専任を持たない研究者への活動補助金の付与についても積極的に行ってゆくことになりました。旅費規程の整備については継続的に検討してゆくことになりました。その他、科学者としての行動規定が紹介され、研究上の倫理の遵守に関する呼びかけが行われました。

《新役員》

再任のご挨拶

日本比較文化学会長 太田敬雄

2005 年の総会で会長に選出され、私は皆様に会則の改定とホームページの立ち上げなどをお約束しました。全役員のご協力のもとで、今年の総会では会則の改定をご承認いただきました。その会則によって役員任期は満了となり、新たな会則の下で新役員が選出されました。そこで私は 2 年目で 2 期目の会長に選出されました。力不足ではありますが宜しく願いいたします。

ホームページは大会直前になって立ち上げることが出来ました。皆様に積極的にご活用いただきたいと願っております。

今年の課題には、学術会議や文部科学省から求められております倫理基準の制定もあります。会員名簿のアップデートも緊急を要する課題です。日本比較文化学会の発展のため、皆様のさらなるお力添えをお願いします。

副会長就任にあたって

栗原 靖

新副会長に就任した栗原靖です。その適格性に問題があるのではないかと思ったりもするのですが、いろいろありまして、結局お引き受けすることにしました。つまりは新体制をソフトランディングさせることがその役割だと心得ています。幸い、新体制、順調に動き始めています。会長をはじめ、みなさまの真摯な努力と人柄によるものです。以前にも増して風通しのよい、自由で活気のある学会に成長することを心から願っています。

事務局長就任にあたって

佐藤 静

新事務局長に就任した佐藤静です。前事務局長の佐藤幸正先生から仕事の引継ぎを受けながら、これからの事務局体制について考えてきました。長年にわたって事務局長として手腕を振るわれた幸正先生のようにはとてもしませんので、事務局の複数体制化を検討してきました。現在、庶務の高橋強先生、会計の田口桂子先生、広報の高山有紀先生と長谷部陽一郎先生の強力なサポートをいただきながら、事務局を運営しているところです。力を結集させてこの学会を支えていければと考えています。私は日本比較文化学会を代々引き継いでゆくべき大切な宝物だと思っています。実際、これほど暖かく活躍の場を与えてくれる学会はないように思います。皆様のお力添えをいただいて、これからの日本比較文化学会を盛り立ててゆければ幸いです。

編集委員長就任のご挨拶

山内 信幸

故芳賀馨名誉会長の後を受け、新編集委員長に就任いたしました同志社大学の山内信幸です。前任の関東支部ならびに関西支部の編集責任者として20年間編集業務に携わってまいりましたが、このたび重責を担うこととなりました。今までと同様に、よろしくお願い申し上げます。旧編集委員会では、本学会の守備範囲ともいうべき各分野の碩学諸兄姉が名を連ねられておられましたが、昨年度太田敬雄先生が新会長に就任されたのを期に、各支部の編集責任者も加わる形で実質的な充実を図り、さらに今年度は、新編集委員会として再編が行われました。今後は、各支部に設置される支部編集委員会を統括し、最終的な編集方針を決定するとともに、新しい企画運営についても責任をもって進めていく所存です。本学会のさらなる発展のために、会員の皆様方にはご理解ならびにご協力をお願いしたく存じます。

広報委員長新任の挨拶

長谷部陽一郎

本年度より新しく設置されました広報委員会の委員長の役を仰せつかりました長谷部と申します。自分にどれだけのことができるか、はなはだ心もとない気持ちではございますが、会員の皆さまの多大なご協力を頂戴しながら、学会のさらなる発展のために力を尽くして参りたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、広報委員会では6月に開設されましたホームページの管理を主な仕事の一つとしております。この国際化時代において、インターネット上での情報発信基盤が整備されたことは、大変に喜ばしいことです。しかし、本学会の様々な活動をサポートするページとして、まだまだ改善の余地があることも事実です。より役に立つページとなるよう、一層努力して参りたいと存じます。

ホームページのほか、広報委員会では『比較文化会報』の編集を行っております。これらはいずれも、会員間・支部間の横断的な連携を促進するものです。また、古くて新しい学問である「比較文化学」の拠点である本学会の存在を広く一般にアピールするものでもあります。これらの媒体を中心とした広報活動を行っていくにあたり、会員の皆さまからの多大なご支援を賜りたくお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

06年会則改定にともなう新規役員（自2006.6.～至2008.6.）

会長：太田敬雄（国際比較文化研究所）

副会長：栗原 靖（弘前大学名誉教授）

事務局 事務局長：佐藤 静（宮城教育大学）

副事務局長：高橋 強（育英短期大学）総務

事務局員：高山有紀（新島学園短期大学）会報

田口桂子（東北学院大学（非））会計

長谷部陽一郎（同志社大学）広報

理事：東北支部長 菊地弘（東北学院大学）、関東支部長 野口周一（湘北短期大学）、
関西支部長 山内信幸（同志社大学）、中国四国支部長 奥村訓代（高知大学）、
九州支部長 市川郢康（久留米大学）、広域アジア支部長 鹿島英一（九州大学）、
佐藤和博（弘前学院大学）、栗原優（駿河台大学）、丸橋良雄（京都大学）、
山下明昭（香川大学）、南川啓一（福岡女学院大学）、浜口美由紀（国際交流基金
関西国際センター）、北林利治（京都橘大学）、阿部晃直（神戸市外国語大学）、
高山有紀（新島学園短期大学）、八尋春海（西南女学院大学）、太田敬雄（国際
比較文化研究所）、佐藤静（宮城教育大学）、栗原靖（弘前大学〔名誉〕）、
岩清水由美子（長崎県立大学）

監事：太田一朗（日本コレス代表取締役）、鈴木瑠璃子（東北学院大学元教授）

顧問：小倉襄二（元新島学園女子短期大学学長）、森 一（郡山女子大学教授）

西村清巳*（弘前大学名誉教授）、石黒昭博*（徳島文理大学教授）、畠中康男*
（岡山理科大学元教授）、引地岳雄*（福島県立医科大学〔名誉〕）、佐藤幸正*
（弘前学院大学教授）

*=新規に顧問を委嘱した方々（5名）

委員会

編集委員会：委員長 山内信幸（英語学）、栗原 靖（論理学）、佐藤 静（心理学）、
栗原 優（社会言語学）、北林利治（英語学）、南川啓一（英語学）

広報委員会：委員長 長谷部陽一郎（同志社大学）HP 担当、高山有紀（新島学園短期大学）
会報担当、鶴田知嘉香（福岡県立筑紫高等学校<非>）、中村善雄（長岡技術
科学大学）、水島孝司（東京海洋大学<非>）、吉岡愛子（上智大学<非>）、
金志佳代子（兵庫県立大学）HP 担当

《特別寄稿》

本学会の前会長芳賀馨先生がご逝去されました。全国大会の折など、先生のまわりにはいつも、たくさんの会員が集まっていました。若い研究者の報告にも耳を傾け、暖かい大きなお声で励ましてくださるお人柄でした。

奥様の芳賀文子先生が、会員みなさんにメッセージを寄せてくださいました。

芳賀 馨からのメッセージ



東北比較文化学会を設立したのは、1979年6月であった。それから3年経ち、会員も全国的に増加したため、日本比較文化学会と改名し、学会としての形を整えることに専念した。

1990年に念願だった日本学術会議第15期登録学術研究団体として認定されたときは、本当に嬉しかった。これで、本学会も文字通り学術団体の仲間入りを果たし、年を負う毎に業績も充実してきたことに満足した。

日本比較文化学会は、学会員の専門分野が多岐に渡る数少ない学会である。会員の研究内容に耳を傾けることで、自分自身にとって幅広い教養を身につける貴重な場となることも魅力である。

日本比較文化学会に流れる特徴が「芳賀イズム」と呼ばれるが、私は好意的に受け止めている。

「初心忘るべからず」常に気を引き締めて自らを磨いて欲しい。

平成18年5月28日、芳賀馨はこの世を去りました。

生前よく口にしていたことを書き留めてみました。やはり学会は、彼の生涯の支えであり、皆様とお会いすることが、大変楽しかったようです。長い間ありがとうございました。

皆様のたゆまぬご研さんをお祈りします。

6月20日 (妻・芳賀文子)

《支部報告》

東北支部

報告すべき行事等は特に行いませんでした。今秋研究会を予定しております。

しかし、東北支部にとってもっとも大きく悲しむべき出来事は、前会長の芳賀馨先生がお亡くなりになられたことでもあります。

この学会の創始者でもある先生には、支部の活動を常に温かい目で見守って頂き、様々な助言、援助を頂きました。深く深く感謝申し上げる次第です。

なくなられる前日に病院に見舞ったものとして、先生がこの学会の将来に託した望みは、言葉に尽くしがたいものがあったと思います。

今後のこの学会の発展は、一重にわれわれの上にかかっていると思います。われわれ会員が、学会の発展に尽力することが先生のご恩に報いる唯一の道だと思っております。

今ここに決意を新たにしつつ、先生のご冥福をお祈りする次第であります。

東北支部長 菊地 弘

関東支部

4月15日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第10回研究発表会(例会)が開催されました。プログラムは以下のとおりです。

1. 支部総会
2. 講演 鈴木宣行氏(創価大学)「セネガルの人々と生活—女性と教育を中心に—」
3. 研究発表
雄谷進(国際交流基金日本語国際センター)「マレーシアの地域拠点としての日本語協会とその教師」
中村善雄(長岡技術科学大学)「サイボーグ・イメージと19世紀アメリカ—ナサニエル・ホーソーンを中心に—」
水島孝司(東京海洋大学)「国立大学における英語教育の目的・目標の現状」
才藤千津子(新島学園短期大学)「カリフォルニア在住日系女性の死別体験」

なお、第11回研究発表会(例会)は、9月30日駿河台大学御茶ノ水校舎での開催が予定されています。発表を希望する支部会員は、関東支部事務局までご連絡ください(y-takaya@mail.neesima.ac.jp)。

野口周一

関西支部

関西支部では、2003年度から副支部長として支部の様々な活動にご尽力くださいました同志社大学の源馬英人先生が2005年度をもって退会されたのを機に、2006年度からは、京都大学の丸橋良雄先生に副支部長に加わっていただくことになりました。関西支部の今後のますますの発展が期待されます。

2005年3月4日に、同志社大学今出川キャンパスで、以下のプログラムにて2005年度最後の例会を開催いたしました。

1. 研究発表
栗山裕也(京都学園大学非常勤講師)「Hemingwayの“Indian Camp”における死」
松本知子(同志社大学嘱託講師)「Bridges between Cognitive Linguistics and Second Language Pedagogy: Learner Corpora and Their Potential」
2. 講演
山内信幸(同志社大学文化情報学部教授)「若者達のビミョーな距離感」

山内信幸

中国・四国支部

当支部では、前期の活動は無く、11月25日に三支部大会を予定しています。また2月頃に支部大会を予定しています。

奥村訓代

九州支部

第18回日本比較文化学会九州支部総会と研究発表を3月25日(土)に中村学園大学にて開催いたしました。

講演: 宮原信孝(久留米大学)「対立と和解—アラブ、アフガニスタン、オランダ、ベトナムでの経験から—」

研究発表：

- 第1室 ①「大学における留学生への英語教育」今田桂子（福岡国際大学）
②「福岡における海外からの旅行者への対応について」
八尋春海（西南女学院大学）
③「多文化共生のための教育プログラムへの取り組み―「異」を認識するために―」南川啓一（福岡女学院大学）
④「住民参加型調査の意識―北九州N校区まちづくり計画の取り組みから―」
樋口真巳（西南女学院大学）
- 第2室 ①「足と車に見るアメリカ人のアイデンティティ」兼本 円（琉球大学）
②「儒教思想をとおしてみる女性の「貞操」の観念―李 光珠と漱石の比較視点から―」朴 順伊（久留米大学非常勤）
③「領台初期の話し方教育」江 秀姿（久留米大学大学院）
④「性差にみる日英語比較」熊抱ゆかり（福岡大学）

市川郢康

《お知らせ》

日本比較文化学会ホームページ開設について

広報委員会

日本比較文化学会では、本年6月よりホームページを開設しました。連絡や情報交換の場として、また、本部や各支部の活動を広く一般に知ってもらうための場として、ご活用いただければと思います。ホームページの管理は、本年度より発足しました広報委員会のメンバーを中心に行っております。今後さらに内容を充実させ、より役に立つものにしていくため、ご意見・ご要望などを広報委員会までお寄せください。

概要

1. URL: <http://www.hikakubunka.jp/>
2. 掲載内容
お知らせ\ 学会案内\ 活動紹介\ 学会誌紹介\ 会員サービス
3. 管理: 広報委員会 (kouhou@hikakubunka.jp)

『比較文化研究』投稿に関する変更点

編集委員会

1. 投稿先について
東北支部ならびに関西支部の投稿先が変更されました。
2. 原稿について
 - ・ハードコピーだけでなく、e-mailでの添付ファイルを提出すること
 - ・1ページあたりのフォーマットについて、和文の場合、1ページあたり44字×36行、欧文の場合、1ページあたり80字×36行を目安とすること
 - ・和文原稿には200語程度の英文要旨を添付すること

3. その他

詳細はホームページ (<http://www.hikakubunka.jp/>) を参照すること

会費の納入のお願い

事務局

会費（年額 5,000 円）の納入をお願いいたします。会則第 6 条の定めるところにより、3 年を超えて未納の場合は会員資格を失うこととなります。未納の方には振込用紙を同封させていただきますので、近日中の納入をお願いいたします。なお、このお知らせと行き違いに納入いただいている場合には、ご容赦ください。

会長室より

太田敬雄

1、広報委員会よりの報告にありますように、昨年度の新規事業の一つとして取り組んで参りましたホームページが今年度の大会開催直前に立ち上がりました。広報委員、特にホームページ立ち上げに関わってくださった委員各位に感謝申し上げますと共に、JACC 会員の皆様の積極的な活用をお願いします。

2、次に、総会報告にもありますように、6 月の総会において本学会の会則が大幅に改訂されました。この会報と共に会則をお届けします。事務局からのお願いにも有りますように、この会則の制定により、三年を超えて会費未納の方は会員資格を失うこととなります。何等かの事情により、会費納入が遅れる場合は三年を超えて未納である理由と、継続して会員であることを御希望の旨を記して、事務局までご連絡下さい。

3、現在、理事会では研究倫理基準、倫理委員会規程の作成を急いでおります。また、会員情報のアップデートの必要性にも迫られており、現在その内容とデータ集めの方法を検討中です。いずれにせよ、近い内に皆様にご協力をお願いすることとなりそうです。この資料を基に、会員の皆様に配布する会員名簿の作成も計画中で、個人情報保護法に抵触しないようにその中身を検討中です。

4、来年度の大会は中国四国支部で開催される運びとなりました。会場校等の詳細は未定ですが、奥村訓代支部長のもとで準備が進められております。

《編集後記》

今年の全国大会では、総会において重要な事柄が審議、決議されました。前会長の芳賀馨先生が逝去されたこともあり、会員の皆様にお届けする情報の多い、今回の『会報』となりました。

今後も、『会報』の充実を図っていきたいと考えております。ご意見、ご要望等がございましたら、広報委員会編集担当高山 (y-takaya@mail.neesima.ac.jp) までお寄せください。

なお、前号（第 31 号）巻頭の発行日が「2005 年」となっております。「2006 年 1 月」の誤りです。この場をお借りして、お詫び申し上げます。（高山記）